

科目名	院内感染管理学 (Hospital Infection Management)			科目コード	442
開講学科	臨床検査学科	選択区分	必修	単位数(時間)	1単位(15時間)
科目区分	専門科目	履修時期	3年次後期	関連DP	臨②④⑤
担当教員	北尾 孝司、佐田 榮司				
授業概要	<p>臨床検査技師としての実務経験を有する教員が、院内感染管理において臨床検査技師が貢献できるように院内感染症について理解するとともに、エビデンスに基づいた院内感染対策について教授する。 (オムニバス方式)</p> <p>(北尾教授) エビデンスに基づいた感染対策、器材・環境などの感染管理、日和見感染菌対策、治療・処置に関連した感染対策の実際、感染経路別予防策に沿った感染管理の実際、インフェクションコントロールチームの中で臨床検査技師の果たす役割、薬剤耐性菌の感染症サーベランスの活用、院内感染の実際例についての原因探求、院内感染原因菌の遺伝子学的検査による疫学調査の方法について教授する。</p> <p>(佐田教授) 院内感染症とは何か、院内感染の現状について、インフェクションコントロールチームの役割について教授する。</p>				
授業目標	<p>感染症対策は医療において重要な課題である。近年、病原微生物に対する抗微生物薬剤の発展は著しいものがある一方で、薬剤耐性菌など新たな問題がクローズアップされてきている。特に院内感染対策は医療機関にとって重要な問題である。そこで、院内感染管理学では、臨床検査技師が貢献できるように院内感染症について理解するとともに、エビデンスに基づいた院内感染対策について修得する。</p>				

授業計画

回	項目	内容	担当者
1	院内感染と感染対策	院内感染の現状と院内感染対策の基本	佐田榮司
2	院内感染対策	チームによる院内感染制御とそれぞれの役割について 治療・処置に関連した感染対策の実際	
3	院内感染と臨床検査の関わり	院内感染対策としてどのようなことが義務づけられているのか、また臨床検査技師の立場から院内感染対策にどのように貢献できるかディスカッションを行う	北尾孝司
4	感染症サーベランス	院内感染防止対策へ微生物検査室としてどのように関わっていけばよいか具体的に考える(感染症サーベランスなど)	
5	アウトブレイク 院内感染発生時の遺伝子検査による疫学調査	院内感染発生時における遺伝子学的検査方法を用いた疫学調査について(パルスフィールド電気泳動法の実際およびPOT法等について)	
6	医療環境の微生物検査	パルスフィールド電気泳動法の結果の解釈 アウトブレイクについて 医療環境における微生物検査方法について	
7	抗菌薬使用における基本的な考え方	抗菌薬使用の基本的な考え方(PK/PD)および抗菌薬使用におけるマネージメントについて考える	
8	薬物血中モニタリング(TDM) ICTラウンドにおける臨床検査技師の関わり	薬物血中モニタリング(TDM)を行う目的、TDMによる効果的な薬剤投与について ICTラウンドの目的と実際にどのようなことを行うのか	
成績評価方法	佐田担当部分 20% (内訳: 筆記試験のみ) 北尾担当部分 80% (内訳: 筆記試験のみ)		
教科書	プリントを配付する。		
参考図書等	浅利誠志・木下承皓・山中喜代治「実践感染管理」(金原出版)		
授業時間外の学習について	前回の項目について配布プリントを参考に復習する。次回の項目について教科書等を参考に予習する。		
関連科目	424 微生物学、427 微生物学実習、425 臨床微生物学Ⅰ、426 臨床微生物学Ⅱ、428 臨床微生物学実習、447 医学検査診断学Ⅰ、444 臨地実習Ⅰ、446 臨地実習Ⅲ		
備考	実 北尾: 臨床検査技師(検査機関)、佐田: 医師(医療機関)		